

【絶滅危惧種展2024-2】ツキノワグマ

日本獣医生命科学大学附属博物館では8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催します。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。初回のシラコバトは日本でのみ絶滅危惧種になっていますが、今回は世界的に絶滅危惧種となっている「ツキノワグマ」をご紹介します。

〈解説〉

ツキノワグマは食肉目クマ科クマ属の哺乳類の1種です。全身は黒い毛に覆われ、胸の部分に三日月形やV字型に見える白い毛の模様があるのが特徴で、ツキノワグマ(月輪熊)の名前の由来ともなっています(胸の模様はない個体もいます)。

世界的には西はイランから北はロシアまで、多くの島しょ部を除くアジアに分布し、日本は分布の東端にあたります。

IUCNは2016年の評価で本種をVUにカテゴリーしており、世界的には個体数が減少している種です。絶滅の危機をもたらす要因は主に二つで、一つは農地開発やダム建設、道路による分断といった、様々な要因によるツキノワグマの生息地である森林の減少です。もう一つは密猟の影響です。ツキノワグマは特に胆汁が漢方薬として古くから用いられることや、中国ではクマの手足の部分が食用に用いられることなどから密猟され、すでに絶滅している地域もあります。

一方で日本国内では少し状況が異なります。最近、ツキノワグマが市街地に出てきたため捕殺されたり、人が襲われたといったニュースを聞くことが多いのではないのでしょうか。連日のニュースを見る限り、国内には多くのツキノワグマが生息しており、今のところ絶滅の危険性はないように思われるでしょう。実際に、環境省は国内に生息するツキノワグマという動物種に対しては絶滅危惧種として指定をしていません。しかし実は、国内でも地域によっては絶滅の恐れがあるのです。

ツキノワグマは日本国内では本州と四国、九州に分布の記録がありますが、四国では個体数が減少し、九州では絶滅したとされており、個体数が多いのは本州だけだと言えます。環境省のレッドリストでは種としての評価とは別に個体群としての評価も行っており、四国に生息しているツキノワグマの個体群を始めとして、西中国地域、下北半島、紀伊半島、東中国地域のツキノワグマについては、絶滅の恐れのある個体群として環境省レッドリストに掲載されています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、当館が所蔵しているツキノワグマの頭骨を展示します。この骨は山形県内に生息していたツキノワグマの成獣であるという情報が残っています。博物館が剥製の作成を依頼していた業者の方より譲り受けた資料となります。

ツキノワグマは、国内の複数の動物園で飼育されていますので、どなたでも見ることが出来ます。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

[和名]ツキノワグマ

[学名]Ursus thibetanus

[標本の種類]骨格標本

[サイズ]253×142×112(縦×横×高さ mm:頭蓋骨全体の概寸)

[レッドリスト評価]

VU(IUCN レッドリスト)

EN(愛媛県 RL2022)

CR(高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版(2018年10月15日変更))

CR(改訂版徳島県版レッドリスト(平成23年改訂版))

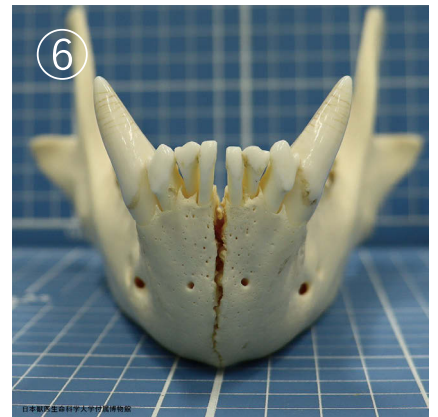
EX(レッドデータブックおおいた2022、レッドデータブックくまもと2019、宮崎県レッドリスト(2020年度改訂))

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

〈参考〉

・IUCN レッドリストのツキノワグマの評価のページ(英語)

<https://www.iucnredlist.org/species/22824/166528664#threats>



- ① 展示標本② ツキノワグマの頭蓋骨
- ② 上顎の歯。大きな犬歯が目立ちますが、食べ物をすりつぶすための臼歯も発達しており、雑食であることがわかります。犬歯は見えている部分(歯冠部)と同じくらいの大きさの歯の根っこ(歯根部)が骨の中に隠れています。
- ③ 下顎骨を横から撮ったところ。歯の部分を見ると上顎と同じく犬歯が大きくて目立ちますが、それに比べてとても小さな歯が犬歯の後ろに3本並んでいます。ヒグマではこの小さな歯が破損してなくなっていることが多いようで、ツキノワグマでもたまになくなってしまいます。
- ④ 鼻の部分のアップ。内側にある薄い骨が複雑に折れ曲がっている部分は鼻甲介と呼ばれます。
- ⑤ 脳頭蓋(頭蓋骨の中でも脳を収めている部分)を後ろから撮ったところ。真ん中の下の方に空いている穴は「大後頭孔」と言い、ここから首の骨につながっています。
- ⑥ 下顎骨を正面から撮ったところ。骨にあいている穴は神経が通っている部分です。

【活動日誌205】オープンキャンパスにあわせて開館しました

7月21日に開催された本学のオープンキャンパスにあわせて当館も特別開館を実施しました。通常は見学の前のご予約をお願いしていますが、この日は博物館の作業室に受付を設置し、受付を済ませた方には自由に館内を見学していただきました。

当日は35度を超える非常に厳しい暑さとなりましたが、昨年の同時期に開催したオープンキャンパスの3倍以上となる724名の方にご来館いただくことができました。

現在は展示準備のため自然系展示室を全面閉鎖していますが、8月17日・18日に開催されるオープンキャンパスからは新たなミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催する予定です！現在鋭意準備中ですので、ぜひ8月のオープンキャンパスでも博物館に遊びに来てください！

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #オープンキャンパス

■7月21日(日)にオープンキャンパスを開催しました

<https://www.nvlu.ac.jp/news/20240723-01.html/>

当日のイベント全体のレポートはこちらです

■オープンキャンパス 8.17(土), 18(日)

<https://www.nvlu.ac.jp/nichijyunavi/event2024/0817/index.html>

8月のオープンキャンパスの詳細や申込みについてはこちらのページをご参照ください

■オープンキャンパス共通イベント 付属博物館自由見学

<https://www.facebook.com/events/462537906602846>

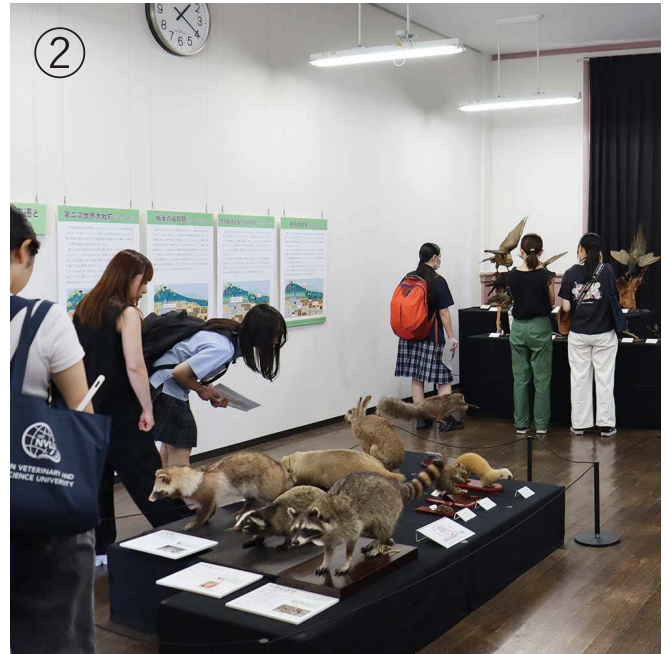
8月のオープンキャンパスに合わせた特別開館に関する情報はこちらをご覧ください

■【お知らせ】ミニ展示「絶滅危惧種展2024」開催(予告)

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20240703-02.html/>

ミニ展示の詳細情報はこちらを御覧ください

2024年8月8日の記事



- ① 会場入口の様子
- ② 自然系展示室の様子
- ③ 歴史系展示室の様子

【絶滅危惧種展2024-3】タイマイ

日本獣医生命科学大学附属博物館では8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催します。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。3回目の今回は日本でも世界でも絶滅の危機にある「タイマイ」です。

〈解説〉

タイマイはカメ目ウミガメ科タイマイ属のは虫類の1種です。日本近海で良くみられるウミガメはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種ですが、タイマイは甲羅の後ろ側の縁がギザギザにとがっているのが特徴です。また甲羅の色は黄色地に黒の斑紋が入る、いわゆるいわゆる鼈甲(べっこう)柄となっています。

熱帯から亜熱帯の海域および周辺各国の海岸部に幅広く生息しています。IUCNは2008年の評価で本種をCRにカテゴリーしており、世界的には絶滅の危険性が非常に高い種です。絶滅の危機をもたらす要因は主に古くから続く甲羅を目的とした乱獲です。過去100年の間にヨーロッパ、アメリカ大陸、日本を含むアジア圏で何百万匹ものタイマイが捕獲されてきたことで個体数が減少したため、ワシントン条約で附属書Ⅰに指定され、1970年代から基本的には国際取引が禁止とされました。日本はその後も1990年代までタイマイの取引規制を留保していたために大量の鼈甲を輸入しており、1950年から1992年の間に、日本は鼈甲を大型のカメ1,329,044匹(1,408,787kg)に相当する量輸入したと言われています(IUCNレッドリストのタイマイのページより)。

日本では、環境省が世界的な評価より一段階絶滅の危険性が低いENにカテゴリーしています。日本では古くからの甲羅目的の捕獲に加え、産卵地である海岸の開発、最近では温暖化によるタイマイの生息環境であるサンゴ礁の白化による影響なども問題となり、個体数は減少していると考えられています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、当館が所蔵しているタイマイの剥製を展示します。この剥製は、タイマイとしてはまだ子どもの個体の剥製で、性別や年齢、産地等の情報は残されていません。

タイマイは国内の複数の水族館で飼育されているため、どなたでも見る事が出来ます。

(スタッフ 廣瀬)

2024年8月10日の記事

〈展示資料詳細〉

[和名] タイマイ

[学名] *Eretmochelys imbricata*

[標本の種類] 剥製

[サイズ] 幅(横) : 279、長さ(縦) : 389、高さ : 122(mm)

[レッドリスト評価]

CR(IUCN レッドリスト)

ER(環境省レッドリスト 2020)

CR+EN(鹿児島県レッドリスト動物(平成27年度改訂))

EN(改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第3版-動物編-)

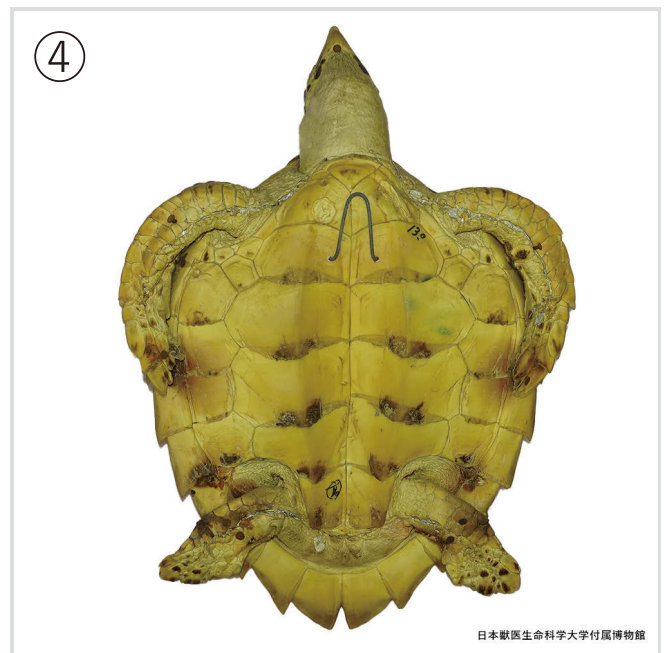
※鹿児島県レッドリストではCRとENを分けずに合わせて絶滅危惧Ⅰ類とするカテゴリーを用いています。

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

〈参考〉

・IUCN レッドリストのタイマイの評価のページ(英語)

<https://www.iucnredlist.org/species/22824/166528664#threats>



- ① 展示標本③ タイマイの剥製(斜め)
- ② 展示標本③ タイマイの剥製(横)
甲羅の部分にはニス塗られたのか光沢があります。
- ③ 展示標本③ タイマイの剥製(上から)
- ④ 展示標本③ タイマイの剥製(裏から)
裏側には壁掛けなどができるように金具が取り付けられています。

【活動日誌206】絶滅危惧種展2024の展示の準備を進めています

8月8日の記事でご紹介した通り、8月17日よりミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催いたします。8月より会場となる自然系展示室を閉鎖させていただき準備を進めてきましたが、開催まであと2日と迫り、現在はみなさんに見ていただく剥製たちほかの資料はすでに配置し終えて、細かい調整や最終確認等を行っています。

今回のミニ展示では、博物館が所蔵している絶滅危惧種の標本のうちの6種7体に加えて、本学獣医学部獣医保健看護学科の病態病理学研究分野ご所蔵のライチョウとアマミノクロウサギの2体の剥製も展示します。昨年度に引き続き関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会との連携展示として、コウノトリの剥製も再登場します。

また、学校の夏休み期間に開始する展示となりますので、お子さん方にも楽しんでいただけるよう、絶滅危惧種に関する絵本や分かりやすい解説の本なども、みなさんに閲覧いただけるように用意いたしました。

展示開始となる17日と翌18日の2日間については、通常と異なり博物館を予約なしでご見学いただけます。なおこの両日については開館時間が通常とは異なりますので、facebookのイベントの情報や、博物館webサイトのミニ展示「絶滅危惧種展2024」開催（予告）ページ等をご確認の上、ご家族やお友達と一緒にぜひご来館ください。

（スタッフ 廣瀬）

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #絶滅危惧種 #コウノトリ

■オープンキャンパス 8.17(土), 18(日)

<https://www.nvlu.ac.jp/nichijyunavi/event2024/0817/index.html>

8月のオープンキャンパスの詳細や申込みについてはこちらのページをご参照ください

■オープンキャンパス共通イベント 附属博物館自由見学

<https://www.facebook.com/events/462537906602846>

8月のオープンキャンパスに合わせた特別開館に関する情報はこちらをご覧ください

■【お知らせ】ミニ展示「絶滅危惧種展2024」開催（予告）

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20240703-02.html/>

ミニ展示の詳細情報はこちらを御覧ください

2024年8月15日の記事



- ① 陳列を終えた標本たち(一部)。ミニ展示で再登場となったコウノトリと、常設展で一時期展示していたツキノワグマの頭骨を除いた他の標本は初の展示となります。
- ② 絶滅危惧種と言え、レッドリストということで、IUCNのレッドリスト評価で大きな役割を担うSSC(Species Survival Commission:種の保存委員会)のメンバーに配られていた貴重なニュースレターも展示しています。
- ③ 夏休みで親子で来ていただく方々にも楽しんでもいただけるよう、今回展示した絶滅危惧種に関するお子様向けの絵本と読み物も用意しました。

【絶滅危惧種展2024-4】コウノトリ

日本獣医生命科学大学附属博物館では、本日8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しています。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。今回はコウノトリです。

〈解説〉

コウノトリはコウノトリ目コウノトリ科コウノトリ属の鳥類の1種です。翼の一部の羽(風切羽と大雨覆)は黒いですが、残りの部分は尾羽を含めて白い羽に覆われています。日本に生息する鳥の中では最大級の大きさで、成鳥は翼を広げると2mほどになります。立った状態での高さは1mほどあり、剥製を近くで見ていただくと大きさに驚かれるのではないのでしょうか。

世界的には中国、ロシア、北朝鮮、韓国と台湾、日本に生息しています。IUCNは2018年の評価で本種をENにカテゴリーしており、世界的には個体数が減少している種です。絶滅の危機をもたらす要因は主に生息地の減少です。湿地を採餌場として利用するコウノトリは、世界的にも問題視されている湿地の減少の影響を受けやすく、また巣として利用する大木が森林伐採等で減少していることも要因の一つとなっています。

日本では、環境省が世界的な評価よりもさらに絶滅の危険性が高いCRにカテゴリーしています。以前は全国に生息していたことがわかっていますが、明治時代の乱獲により激減し、兵庫県と福井県内だけにしか生息していない状態となりました。大正時代には生息地が天然記念物として保護されたにも関わらず個体数は減少し続けて、1956年にはコウノトリは国の特別天然記念物に指定されました。

1960年代に入って野生の個体を捕獲して飼育下で繁殖する試みが開始されましたが、1971年には野生下で絶滅してしまいました。

その後の飼育下繁殖の試みにおいて飼育個体は順調に増加して、2000年代には兵庫県で野生復帰のための放鳥が世界で初めて実施され、2022年には野生下の個体数は300羽を超え、関東でも放鳥された個体が野生下で繁殖するようになりました。コウノトリは国内で今でも絶滅の危機にあるものの、少しずつ個体数が増加していると状態にあると言えるでしょう。このままコウノトリが自然に繁殖して個体数を増やしていけば、いつか日本では絶滅危惧種でなくなる時が来るかもしれません。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、当館が所蔵しているコウノトリの剥製を展示しています。この剥製は、昨年度のミニ展示「おしえて！コウノトリ～日獣大にコウノトリがやってきた～」で展示した剥製です。個体情報の詳細等は絶滅危惧種展の展示エリア内にてパネルで紹介していますので、ぜひ見学にいらしてください。

コウノトリは国内の複数の動物園や飼育施設にて飼育されているため、どなたでも見ることが出来ます。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

〈展示資料詳細〉

[和名]コウノトリ

[学名]*Ciconia boyciana*

[標本の種類]剥製

[サイズ]全長：1,270、翼開長：2,080(単位はmm)

[レッドリスト評価]

EN(IUCNレッドリスト)

CR(環境省レッドリスト2020)

CR(北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版(2017年)、岩手県レッドリスト(2024年度版)、岡山県版レッドデータブック2020など多数)

EN(山形県第2次レッドリスト(鳥類、昆虫類)について(2015年度改訂版))

VU(京都府改訂版レッドリスト2021)

EX(埼玉県レッドデータブック動物編2018(第4版))

X：消息不明・絶滅生物(千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版))

※千葉県レッドリストでは独自のレッドリストカテゴリーを用いています。

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

〈参考〉

・『おしえてコウノトリBOOK』(関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会制作)

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000773069.pdf

2024年8月17日の記事



- ① 展示標本④ コウノトリの剥製(正面)
② 展示標本④ コウノトリの剥製(横)
③ 展示標本④ コウノトリの顔のアップ

【活動日誌207】学芸員課程実務実習：美術品の梱包

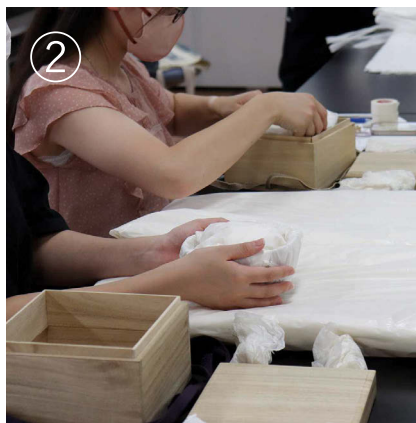
【活動日誌207】学芸員課程実務実習：美術品の梱包

今年度の学芸員課程実務実習もいよいよ最後となりました。最後のテーマは「美術品の梱包」です。

実習当日は運送業者の美術品専門部門の方に講師としてお越しいただきました。学生たちは、美術梱包の現場における作業や運送の流れについて講義を受けてから、実際に美術品の梱包に挑戦しました。実習当日に学生が梱包を体験したのは仏像の手・茶碗・絵画の3点です。また、資料の梱包に使用する「綿枕」の作り方も教えていただきました。どれも本学の通常の授業では扱うことがない物のため、学生たちは興味深そうに取り組んでいました。

学芸員課程において実施される学内実習は、見学実習と実務実習に分かれています。4年生を対象とした実務実習は今回の実習を持って終了しましたが、8月末からは3年生を対象とした見学実習が始まります。こちらの様子もFacebookで紹介していきたいと思っています。

(学芸員 石井)



- ① 資料の梱包に必要な綿枕を作成する様子
- ② 桐箱から資料(茶碗)を取り出す様子
- ③ 桐箱の紐のかけ方を学ぶ様子
- ④ 作成した綿枕で茶碗を包む様子

★今年度の実務実習の様子は下記の記事をご参照ください

【活動日誌 190】学芸員課程受講生による実務実習が始まります

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid03TzcWvBmts6Y5B4XghfzPfGwyLNGA69jypmMkNeiNHAqUaxwPA2iEEig8ht35qt9l>

【活動日誌 192】今年度の実務実習が始まりました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02gDMXGNHG7A8iibE7bPazCqP6Ubbzztyjscuy9UQiL4FZi4VgX3fwaZYAKBN27EVGI>

【活動日誌 193】学芸員課程実務実習：資料の整理と展示の立案

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02o98JRQ3J4xknFpAJJx4JLVyqCZJ2wrizVU5hCZpXPfqzjEPjiyazp85iizv7DhqHI>

【活動日誌 195】学芸員課程実務実習：植物標本・昆虫標本の作成 1

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02dUmqbrth17AevDNi1JxJEgEm4t1LHT3VpvF13u6CFfXimjbPffnYDDBCahws4qpal>

【活動日誌 198】学芸員課程実習：掛け軸の取り扱い

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid0kF4eCMkitXippizp4icwovinQL7urxa2orUQjSsWD89r1QQKUfHS4F7Bjw8P1SRql>

【活動日誌 199】学芸員課程実習：展示台の作製

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02KoJGu3Skin2ctvYNPSgUKK3rHa2thS3jD772jtB6xQFJehvGP9oLHJMnEje3FLyMI>

【活動日誌 200】学芸員課程実務実習：植物標本・昆虫標本の作成 2

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02U8fkiaVmHEzXWqXj3sWnyJXDoUf7kwdCKpYpVtovVJXDPyH7AwpP4udkrorXodBSI>

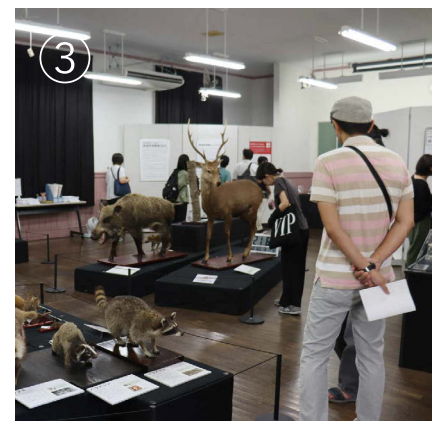
【活動日誌208】オープンキャンパスに合わせて博物館を開館しました

先週末に本学のオープンキャンパスが開催され、当館も特別開館いたしました。

当日は博物館の3つの展示室(歴史系展示室・自然系展示室・定期交換展示室)を公開すると共に、ミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開始しました。2日間で合計1000人の方にご来館いただき、ミニ展示も好評をいただいています。

詳細なレポートは後日博物館公式サイト内「博物館ニュース」のページに掲載いたします。どうぞお楽しみに。

(学芸員 石井)



- ① 入口の様子：沢山の方にご来場いただきました
- ② 博物館見学の受付の様子
- ③ 自然系展示室の様子

【絶滅危惧種展2024-5】ユキヒョウ

日本獣医生命科学大学附属博物館では本日8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しています。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。これまでは日本に生息している動物を紹介してきましたが、今回から日本にはいない世界の絶滅危惧種を紹介します。

〈解説〉

ユキヒョウは食肉目ネコ科ヒョウ属の哺乳類の1種で、大型のネコ科の種として動物園などでも人気の高い動物です。尾を含めた全身が長い毛で覆われていること、また尾の部分が体の長さと比較して長いことが特徴です。

ヒマラヤ山脈を南限として主にアジアの高山帯の岩場や草原に生息していますが、アルタイ山脈では標高500mほどの低地に生息しているとされています。IUCNは2016年の評価で本種をVUにカテゴリーしており、世界的には個体数が減少している種です。絶滅の危機をもたらす要因は、家畜の放牧による餌動物の減少、放牧されている家畜を捕食することによる人間との軋轢、温暖化による生息環境の変化、毛皮や骨目的の密猟などが挙げられます。

ユキヒョウの毛皮は保温性が高く、また骨がトラの骨の代用品として漢方薬で用いられるために古くから捕獲されてきたため、ワシントン条約の発効時から附属書Ⅰに指定され、基本的には国際取引が禁止されています。

日本では種の保存法の国際希少野生動植物種に指定され、個体の取引はもちろん、毛、皮、歯、爪などの部位や、それらの部位を使った毛皮製品、皮革製品、歯の製品、爪の製品、などについても、取引と取引につながる販売・頒布目的の陳列・広告は原則として禁止されています。

また動物愛護管理法で特定動物にも指定されているため、ペットとしての飼育も国内では禁止されています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、当館が所蔵しているユキヒョウの毛皮標本を展示しています。この標本は、本学獣医学部の和田教授よりご寄贈いただいたものです。産地は毛皮についていたタグからパキスタンだと分かっていますが、その他の情報はありません。ユキヒョウとしては小柄なのでまだ若い個体と思われ、最大の特徴である尻尾の部分は残念ながら途中で切れてしまっていたようで、短くなっています。

ユキヒョウは国内の複数の動物園にて飼育されているため、どなたでも見ることが出来ます。

※本学にご寄贈いただいた毛皮標本については、大学における教育・研究目的で譲り受けしたものとして、環境省が定める種の保存法の所定の書式にて届け出を行っています。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

[和名]ユキヒョウ

[学名]Panthera uncia

[標本の種類]毛皮標本

[サイズ]幅(横):474、長さ(縦):1330、厚み:36(単位:mm)

[レッドリスト評価]

VU(IUCN レッドリスト)

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

〈参考〉

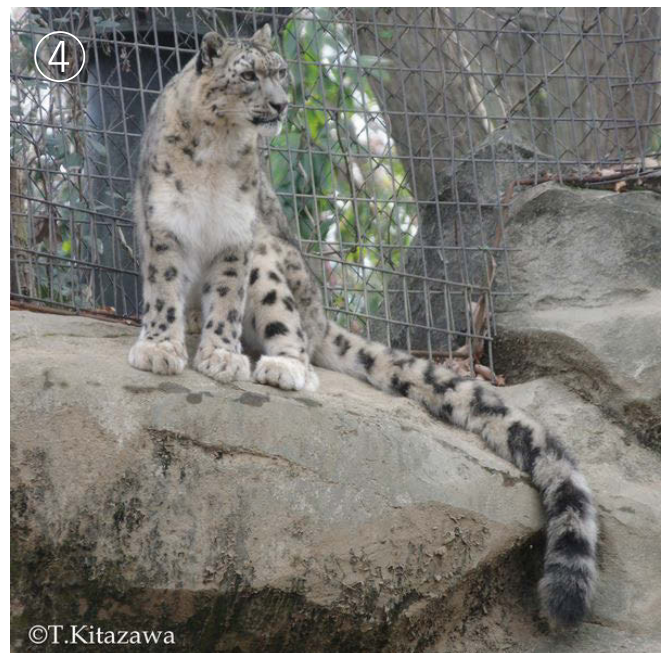
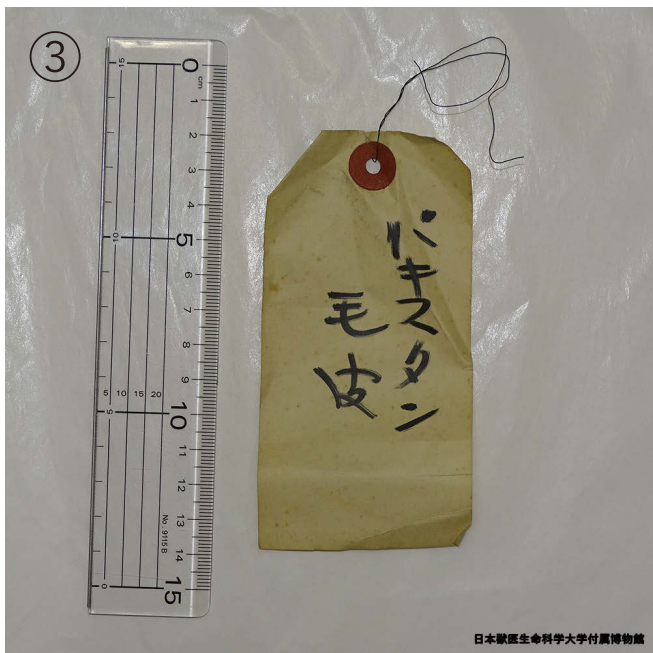
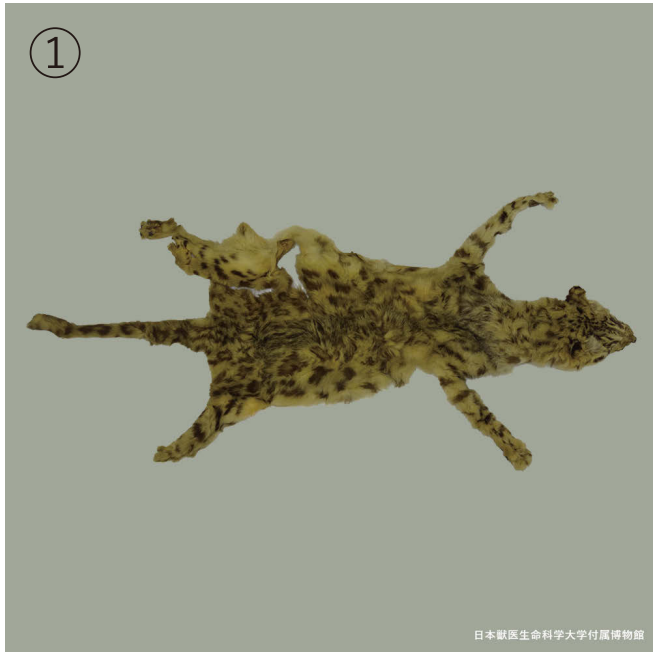
・IUCN レッドリストのユキヒョウの評価のページ(英語)

<https://www.iucnredlist.org/species/22732/50664030>

・【資料紹介7】ユキヒョウ毛皮標本

<https://www.facebook.com/100048414667040/posts/451229166734365/>

ユキヒョウの毛皮標本の寄贈を受けたときにFacebookで紹介した記事です。



- ① 展示標本⑤ ユキヒョウの毛皮標本(全身)。尻尾の部分はちぎれて短くなっています。
- ② ユキヒョウの右前脚。爪はほとんどなくなっています。
- ③ 毛皮についていたタグです。パキスタン北部は現在もユキヒョウの生息地となっています。
- ④ ユキヒョウ成体。多摩動物園で撮影したユキヒョウです。展示している毛皮と比べて尻尾が太くて長いのがわかります。

【活動日誌】学内での野鳥の繁殖

先日大学の守衛さんから「鳥のヒナが落ちているよ」と声をかけられ、博物館スタッフが様子を見に行きました。現場にいたのはヒヨドリのヒナです。どうやら学内のモチノキにヒヨドリの巣があり、ちょうど巣立った直後のようでした。

巣立った直後のヒナは心細そうに見えますが、通常であれば親鳥が近くから様子を見て世話をしています。このときも、ヒナがいた場所の反対側の建物の上に親鳥と思われる個体の姿が確認されました。物陰からしばらく様子を見てみると、親鳥がヒナの近くまで飛んできて、別の場所に誘導していきました。一般的な巣立ち直後のヒナより少し小柄に見えるのが気かりでしたが、巣の位置が高くヒナを戻すことも困難なことから、ここから先は親鳥に委ねることとし、注意喚起の看板を置いて現場を後にしました。

春から夏にかけては野鳥の繁殖シーズンです。これまでも学内で、キジバト・オナガ・ヒヨドリなどの複数の野鳥が繁殖していることを確認しています。これからも当館では野鳥たちの姿を暖かく見守りたいと思います。

（学芸員 石井）

日本獣医生命科学大学 # 博物館

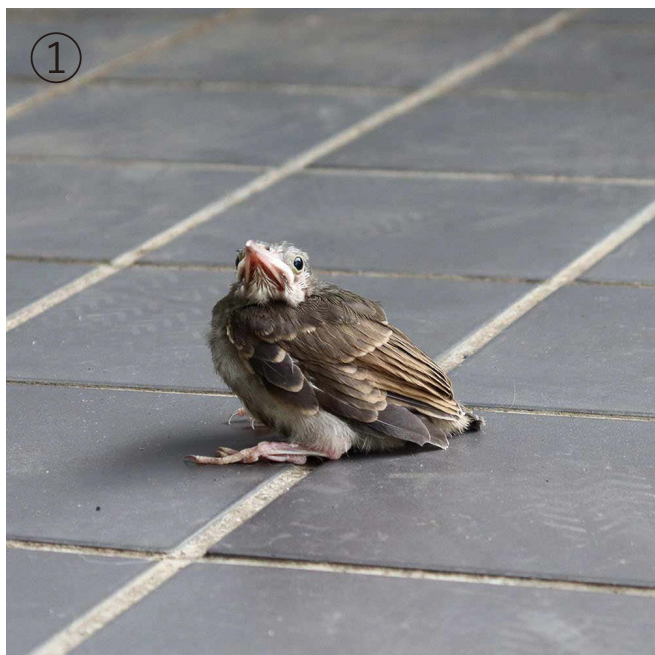
■【活動日誌54】ヒヨドリの巣を採取しました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/397614268762522>

■【活動日誌58】ヒヨドリの巣を調べてみました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/411104357413513>

2021年には繁殖が終了したヒヨドリの巣を標本として採取しています



- ① 巣立ち直後のヒナ：まだ羽が生え揃っていません
- ② ヒナの様子を見に来た親鳥：床面のタイルの上にヒナが、リヤカーの上に親鳥がいます。この後、親鳥がヒナを学内の別の場所に誘導する様子が確認されました。
- ③ 設置した看板